

安息日

マルコ 2:27-28

安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたわけではありません。
人の子は安息日の主です。

いつが安息日か？(3つの考え方)

- ① 土曜日
- ② 日曜日
- ③ 365日

① <旧約時代>

出エジプト 16:26/30 etc..

26 六日の間はそれを集めることができます。しかし安息の七日目には、それは、ありません。」

30 それで、民は七日目に休んだ。

② <新約>

1 コリント 16:2

いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。

黙示録 1:10

私は、主の日に御霊に感じ、・・・

	休む日	呼び方	
旧約時代	週の終わり（7日目）	安息日	ファラオから解放された日の記念
新約時代	週の初めの日	主の日	主が復活して死から僕らが解放された日の記念

<注> 2種類の主の日 the Day of the Lord (最後の裁きの日) / the Lord's day (週の初めの日) 「聖日」

③

ヘブル 4:4-9

4 というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた」と言われました。

5 そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息に入らせない」と言われたのです。

6 こういうわけで、その安息に入る人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従順のゆえに入れなかったのですから、

7 神は再びある日を「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」と語られたのです。

8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであったら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。

9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。

<安息日の日付議論について>

コロサイ 2:16-17

16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。

17 これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。

ローマ 14:4

4 あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。

安息日とは

① 主がくれる休日：主からの休日のプレゼント ※ファラオはくれない。

出エジプト 16:26/29

26 六日の間はそれを集めることができます。しかし安息の七日目には、それは、ありません。」

・ ・

29 主があなたがたに安息を与えられたことに心せよ。それゆえ、六日目には、二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にとどまれ。その所からだれも出てはならない。

② 救われたことをおぼえる日

申命記 5:15

12 安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。

13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。

14 しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事してはならない。—あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も—そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。

15 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。

③ 10 戒の4つ目

出エジプト 20:8-11

8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。10 しかし七日目は、あなたの神、主の安息日である。あなたはどんな仕事してはならない。—あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も—11 それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

④ 喜びの日

イザヤ 58:13-14

13 もし、あなたが安息日に出歩くことをやめ、わたしの聖日に自分の好むことをせず、安息日を「喜びの日」と呼び、主の聖日を「はえある日」と呼び、これを尊んで旅をせず、自分の好むことを求めず、むだ口を慎むなら、14 そのとき、あなたは主をあなたの喜びとしよう。

議論

○主の日/安息日⇒日曜日の礼拝は守らないといけないものか？

<意見 1>モーセの 10 戒にあるから、守らないといけない。

⇒旧約の律法である。律法はイエスによって成就された(マタイ 5:17) 廃棄はされていない

⇔「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰による」(ローマ 3:28)

<意見 2>日曜日が仕事の人もある。守らなくてもよい

⇔○『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』(マタイ 4:4)

○だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。・・あなたがたは神にも仕え、また富にも仕えるということではできません。・・自分のいのちのことで、何を食おうか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。(マタイ 4:24-25・・・34)

⇒とは言っても、仕事あるし・・

⇒エペソ 2:1-2

あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。

ヨハネ 12:31「この世を支配する者」

タイスケの見解 (タイスケの神学)

※「神学」という言葉の定義：信仰を前提とした上で、神をはじめとする宗教概念についての理論的考察 (Wiki)

安息日を「喜びの日」と呼び、主の聖日を「はえある日」と呼び・・・(イザヤ 58:13)

日曜礼拝は、大好きな主イエスと会うデート、超喜びの時!!!

愛は死のように強く、ねたみはよみのように激しいからです。その炎は火の炎、すさまじい炎です。
大水もその愛を消すことができません。洪水も押し流すことができません。
(雅歌 8:6-7)

⇒「守らないといけない」となっているのが問題。
⇒「予定がいたら行く」となっているのが問題。

したいからくる。
したいけどできない・・・って苦難にいる、切ない状態にいる。

と感ずるのが健全なクリスチャン

エペソ 6:12『わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。』

エペソ 3:13

私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです。

クリスチャンとしての生活=聖書でイエスとの結婚に例えられる⇒家族として過ごす生活。

イエスに会いたい、との気持ちが弱いのは信仰生活（家族として過ごす生活）の危機。



「守らないといけない」「予定がいたら行く」との状態は
ピンチ、やばい!!との認識が大事!!

本人が、コミュニティが祈るべき課題

<要因>

- ・教会、牧師に縛りを感じる
- ・コミュニティに魅力を感じない
- ・礼拝に行く意味を感じない
- ・主日を守る意味を感じない
- ・イエスの優先順位を生活の中であげる気がしない。

etc..